

自由投稿「水田さん（20期）を悼む」

20期一同 編

2015年3月25日に20期の水田さんが亡くなりました。

単身赴任中で、前日まで会社の仲間と飲んでいたとの事で、あまりにも突然の出来事に、羽柴秀吉が信長を、松下村塾が松陰を、海援隊が龍馬を失った時の衝撃の如く、我々はエースを失ってしまいました。「野生人」と異称され、ラグビーもやっていて筋骨隆々、スポーツ万能で豪快でありながらも、一途で純情、心優しい男でした。先輩、後輩の皆からも慕われて、いつも微笑みを浮かべて、ニコニコしていながらも芯は強く、信念を持って皆が期待する驚く事を率先垂範する、正に頼りになるエースでした。

仲間でしか分からない、阿吽の共有の体験談が多く、それらを肴に、これから老後も山登りに酒やゴルフなど一緒に楽しむつもりだったのに、身体の半分を失ったようで涙が出てきて、無念でなりません。

ご両親様、奥様ご家族、ご親戚の皆様のお気持ちを慮るに、言葉が見つかりませんが、太く短く男らしく生きた生きざまを我々が語り継いでお聞かせする事によって、お慰め致し度いと考えています。

水田が愛した皇海山の写真2枚を並べて、ご冥福をお祈りします。合掌

安武（20期）



1977年11月30日

足尾銅山跡一庚申山

皇海山を目指すも庚申山中でルートを
外れてしまった



2009年5月16日

皇海山（第25回OB山行）

2列目左から2番目

こんなに早く彼の追悼文を書くことになるとは思っていなかった。

彼とは共通点が多い。同じ建築科で、実家は工務店。おそらく地元の周囲からは、跡継ぎと見られていたのではないと思う。群馬県と福島県の男子校出身で、お互い、横浜での学生生活は垢抜けなかった。ワングル時代、一緒に山行は新練一次とPWが2~3回位と、あまり多くはなかったが、下宿が近く、麻雀や飲み会など常に彼と一緒にいた記憶が残る。勉強は・・・これは、お互いあまり記憶が無い。

風貌から野生人と称されていた彼だが、純情を絵に描いたような性格で、一途な思いと心優しい男だった。大学卒業後それぞれ別の建設会社に就職するが、私は30年前に田舎に戻り家業を継ぎ、彼とは異なる道を選んだ。彼にとって、決して後悔のない素晴らしい人生だったと思うが、あまりにも早すぎる。残されたご家族にも、われわれ仲間にとって早すぎる別れた。何でそんなに急いだのか、残念で仕方ない。今は彼を偲んで、そのご冥福を念じるしかない。合掌

作山（20期）

とにかく豪快なやつだった。スキーは曲がらずに直滑降、細かいことを気にせずに真直ぐ進む。そんな彼に私もあやかりたい。ただただ冥福を祈るのみ。

武藤（20期）

いまだに一番頑丈な水田の急逝は信じられない。和田町の水田の下宿でご飯を炊いてバターと醤油で、うまいまといっぺ一緒に食べた。豪快だけど人に優しく気遣いができる人だ。もうだいぶ前になるが軽井沢で20期PWを一緒にやった。最近では仕事が忙しい中でも飲み会にも参加していた。今度は元山小屋委員長の水田が幹事役で20期同窓会の山小屋PWをやろうと話していたのに残念でならない。いまはただ彼を偲んで冥福をお祈りします。

西田（20期）

水田の訃報に接し、皆「信じられない」と口々に言う、「あの元気な水田が、同期で一番頑丈な水田が」。学生時代、妙高国際スキー場（当時の名）でガスが濃くグレンデの脇で休んでいた時のこと、霧の中から突然現れ、直滑降でそのまま霧の中に消えて行った水田を思い出す。誠に豪快な男である。その水田が何を早まったのか、直滑降であちらまで逝ってしまった。残念でたまらない。子育ても終わり会社生活もゴールが見え、これからが中年の遊び盛りなのに・・・。

しばらくはまだこちらに居ますが、あちらに行ったらまた酒を飲み交わしましょう。ご冥福をお祈り申し上げます。

石垣（20期）



2013年12月18日

ワングルの仲間と居酒屋にて